

私の人生の宝

50回・50年にわたり、「宮城道雄をしのぶ箏の夕べ」のシリーズを牽引していただいた中島警子さんに、お話をうかがいました。

こうした構成は、若い方々に邦楽をご理解いただきたい、最後まで聴いていただきたいという期待からでございます。

演奏曲は、名曲「春の海」をはじめ、いずれも宮城先生の代表曲中の代表曲でございます。「春の海」を合奏しましたとき、涙を流して聴いてくださった方が少なかつたと後でお聞きしまして、私どもも感激しましたことを覚えております。

終曲の「越天楽変奏曲」は厳かで格調高い曲でございますが、私どもにとりまして、昭和22(1947)年の桐絃社創立演奏会の締めくくりに演奏した“記念の曲”で、それ以来、私どもでは重要な節目で演奏する大切な曲としております。ですので、第1回「宮城道雄をしのぶ箏の夕べ」で「越天楽変奏曲」を演奏いたしましたことは、このシリーズに寄せる私どもの期待、意気込みがいかに大きかつたか…ということでございます。お察しくくださいますと幸いです。

おかげさまで第1回は、会場の大阪厚生年金会館中ホール(定員1110人)は超満員となり、熱気にあふれました。6月下旬ということもありまして、客席は暑くてたまらなかつたという“感想”を後でたくさんいただき、恐縮いたしました〔笑い〕。

ただ、開催日(6月23日)は、私どもが希望して設定していただきました。これは宮城先生のご命日(6月25日)にちなんだもので、「しのぶ夕べ」の演奏会タイトルと、いわばセットでございました。第2回以降も、そのような日取りに

していただいております。

主な宮城作品 ほぼ演奏

1973年の第1回から今まで、たくさんさんの箏曲作品をお聴かせくださいました。

中島 当初は宮城先生の作品だけで構成し、その中に「春の海」を必ず入れる心づもりでしたが、邦楽を知っていただくためにもう少し幅を広げようということになりまして、程なくして宮城作品だけでなく、先生がお好きだった古



典曲、同じ時代に活躍された方々の作品、そして評価の高い現代曲なども取り上げることにいたしました。ただ、どの回も終曲には、宮城箏曲ならではの規模の大きな箏合奏曲を配しています。それにより、宮城先生の主要な作品はこれまでに、ほぼお聴きいただけたと思います。

回を重ねるにつれ、プログラム構成に苦労するようになりましたのは事実でございますが、桐絃社門人の意見も採り入れながら工夫し、演奏会として豊かな内容をおくりすることができたと、私どもは自負しております。

会場も、1991(平成3)年の第19回から、いづみホールに移りました。

中島 大阪厚生年金会館(1968年開館、2010年閉館)の中ホールは響きが良くて、須山先生も私もお気

に入りでしたが、昭和60年ころから「座席がギシギシ鳴る」、「座り心地が悪くなった」というご指摘が聞かれるようになりました。老朽化ですね。私どもも心配しているところへ、大阪新音さんから「先頃(1990年)オープンした“いづみホール”はクラシック専用をうたっていますが、邦楽演奏会も可能ということです。この際、移ったらどうでしょう」と仰ってくださったので、引っ越した訳でございます。須山先生は「音響がすばらしい、演奏しがいがある」と大変喜ばれました。私も、音響はもとより、豪華ながら落ち着いた雰囲気感激しました。しかし、ステージに幕がありませんので、一門には抵抗する者もおりましたが〔笑い〕「お客さまに、暗転中の舞台替えをご覧いただくのも趣向であるし、きびきびと動けばきっと感心してくださる」と押し切りました。ご来場の皆さまには予想どおり大好評で、いづみホール(現 住友生命いづみホール)での演奏会は、私どもにとりまして誇れる会でございます。

“むすびの会”を迎えてのご心境をお聞かせください。

中島 私はことし満100歳となります。その半生をかけて「宮城道雄をしのぶ箏の夕べ」シリーズに取り組みせていただきました。おかげさまで、箏曲家人生の大きな宝の一つとなりました。

ご支援くださいました皆さまに心よりお礼を申しあげます。ありがとうございます。

(取材・記事 大阪新音)

*インタビュー 2025年1月